京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行金五十錢▲一號活字特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久錦一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話六六三番　振替口座東京四五九六番
仁川宮町三丁目　電話二一一番　仁川支局
東京市京橋區南金六町七番地　東京支局

●奉天より

釋尾旭邦生

閣下　貴兄と滿鐵聯絡の鳴綠江橋上に別れ同業一行と共に新義州安東縣に一泊例に依り酒と美人で氣焔と皮肉とにて夜を更かし翌早朝同業の過半は撫順車に便乘して京城に歸り、余は永興、古迹、玄莵の王子を宿を履み江の畔に出で、船を艤して對岸に渡り九時四十分の汽車にて安東縣發奉天に向ひ候、車中には滿鐵の實役、奉天大連の同業者、又一二の滿洲豪傑支那浪人あり、中々に賑ひ申候、殊に工兵中佐の某あり安奉沿線の事情を觸目する毎に説明され非常の智識を得たるは偶然の獲物にて候ひき、甲説き乙駁は遂に滿洲殖民論に入る、滿洲豪傑の某喝破して曰く「足下、此殖民する此の沿線千里の平野は殖民を待つて居る、急なるものあらずや」彼れ曰く千里の平野ありと雖も尺寸の地も之を日本人に與へぬを如何せん、相當の代價を拂はゞ個人間の賣買行はれざるの理あらんや、個人としては價を待ちて賣んとするも支那官憲の絶對的に之を許さゞるを如何せん、余曰く若し足下の言ふ如くならんか滿洲の殖民は全く絶望にあらずや、然り今日の如くんば絶望なり、余曰く然らば小村外相が嘗て議會の壇上滿洲の移民論を説きしは三百の議員を欺きたるか、客曰く欺きたると否とは知らず專賣の上に滿洲の地は滿鐵が租借せる偉大の地の外には尺寸の土も賣買貸與を嚴禁されたるを如何せんさ、噫水浪兄足下滿洲の實情は此主客の斷言に依りて略ぼ其一端を窺ふに足り申さずや滿洲經營亦至難なる哉多難なる哉に候はずや、滿洲問題の研究は趣味あつて然して又時代の急務と存候。

水浪君足下吾等は斯の如き議論と氣焔との中に安奉線の勝地たる鷄冠山を過ぎ橋頭を辭め日清合同經營の本溪湖を過ぎ日露の古戰場と彼處此處に指目しつゝ夜の七時奉天に入り申候。

奉天に着して先づ驚きしは停車場の壁宇にして最も斬式なる堂々たる一建物[illegible]バラック式とは全く同日の論に無之候其夜は安奉線一日の煤烟を洗ひ去りて一行四人枕を連ねて無事に平和の夢を結び候、明くれば天長節に候、一行四人二臺の馬車に二人づゝ分乘して先づ愛親覺羅の第二世大宗の廟と稱せらるゝ北陵に詣で其墓陵の壯大に一驚を喫し併せて茫々たる枯野の中に一林の老松千古の緑を成すは甚だ珍とすべきに候、其れより馬頭を還し、城内に入り愛親覺羅の中世迄皇居とされしと稱せらるゝ宮殿を拜觀し其壯觀と稱し候、宮殿內の實庫に入り、歴朝の愛玩物を觀覽致候乾隆帝の愛玩物最も多く頗る貴重品に富み、骨董の流涎萬丈を禁ずる能はざる逸品夥多あり、沒風流の一行も多少心動きたる樣子に候。

●ひかへ帳（三）

かもめ

◎何事も文典靈め、杓子定規。「先生の」は野でせう……おやのらは？」「矢張り野です」と敎へられて「ハヽア、おやのらは野の複數ですね」と大點頭に合點たる生徒ありしは、運れぞ是れ文學專攻の某校にての事實譚。御道理千萬、遠く外國語の文典に事例を索むるまでもなし、日本語にても吾等は吾の複數なり。

◎所謂、我が錦繪しの、横文字とやら盤行文字とやらの怪獣に、多くの頭腦惱ませしと云へば、更々失れも無理ならねど、二言目には碧眼奴贔負、西洋が下押し通す男の、或時一冊の英書片手に飛び込んだのは、日頃其の身の西洋崇拜を嘉味噌に貶しつける友が家。座るど突如携へたる書物押し開いて「君什うしても西洋人は偉い、日本では足駄穿いて頸つ丈けと云ふ語があるが彼方では然うした場合、耳端まで溺れると云ふ熟語が厳然在るのだからな、耳端・頸丈け精に於ても深いだらう。」

◎入笑人の夫れならねど、片腹痛き自慢の數々、謡云ふとなく同輩間に愁慢と綽名さるゝ男の、謡曲の稽古を始めて未だ一年に成るやならず、既う、二百十番は鵜呑みにしたと誇り顔なるが可笑しとて、去る皮肉家の御苦勞にも態々書面以て之れを詰れば、流石に振つてたのは其の返書「君は僕が一年前に謡曲の稽古を終へたといふを珍らしさうに云ふが、考へても見給へ謡曲で一番長いのが鉢の木の十七八枚短いので鶴龜の二三枚、一日に五枚づゝ習ふとして一年で幾何經になる、特に不思議はないぢやないか」

◎逃れも矢張り此の愚慢先生なり。ざいいんす、ありんすを傾斜語と知らぬ人に「一体彼れは何時代、何處の言葉で」と訊ねられて無錯に一度知らぬと言つたことなきが身の病「ウム、彼れか、彼れは昔の京都の公家社會の言葉さ」

◎雖然、當代近松學者のオウツリテーとして、名を列ね給ふ御歴々の中にも丸本なぞに三重とありますのは何と讀れて、三味線をベンベン、ベンと三度彈き鳴らすことですと事もなげに答へ給へし御方が交り給ふを見れば兎角世間は儘うしたかものか。

◎耳學問の聞き噛り、見様見眞似に茶の湯、生花の一斑、曲りなりにも行つて抜け給へば、早速の通人顔、座鑑とやらんさへ、魯士の茶歌に依りたりと云ふ七碗堂、柿色の炮烙頭巾頭に今の若い者は……と、所謂現代青年の無風流を罵り給ふ去る商家の御隠居殿の家流、書かれたるを何有かと見れば「七碗堂主人持用」

外事一束

▲世凱　總理大臣を紹怡親王大臣を辭せんとし政府中外の望に對し聽許せず

▲革黨　資政院の態度は民意代表機關にあらず今や議員皆資格を失す然るに

▲吾人　の鮮血を借て獨斷的主張を行ふ我黨斷して其決議に服せずと宣言す

▲城內　叛軍起り上海手もなく革軍に歸す

▲上海　革軍更に杭州蘇州の占領を豫期す外國租界支那街共に無事革黨金融市場の

▲救濟　に努め且つ總監外交部長商務委員等を新任して秩序の回復に努力す

▲兵燹　漢口の支那街全部を焼き盡し今や更に漢陽に及び一哩の間火焔烈々

▲九江　砲臺の革軍下江中の日本驅逐艦[illegible]を砲擊す即ち我が官憲の詰問に

▲辨疏　して曰く官軍方の軍艦日本艦旗を掲げて革命を欺く恐懼せる結果と

▲觀測　は政治的理由以外人種的辨見に因る資政院議滿漢城化政策を議決す

▲歎艦　式後米大統領其有効狀態にあるを賞揚し只不足なるは驅逐艦と說く

▲英獨　協會倫敦市長の提議を容れ明後年伯林に英、獨大博覽會開設に決す

梁川庄八　第二十九回

小金井蘆洲演

屆出を聞て甚太夫內心悅んだのは「是れこそ倅の讐の敵を捕ぐ好機會、岩五郎に內意を云含めて土俵の上で孝太郎を怪我をさせ不具にするか、但しは投殺さして倅の怨を叶はしてやらう」と惡意を企んだ何ど怪しからんことで、村役人に向ひ　甚「夫は至極結構な事だ乃公も陣屋村の大村荒居村が、小村の和泉村に負けたと有ては甚だ快よくないと思て居た、是非勝たせたい者だ、就いては其大瀧と云者と備ふて進が陣屋へ同道を致せ」一同「畏りました」と御代官様から聲掛りだから、即時勝浦の岩五郎方を訪ねて、右の事情を打明けて相談をすると、大瀧も豫て勝見山の强いと云事は聞て居るが、天狗があるから何どれ程の事は有者か、何時か折があつたら取組んで見たいと思つて居たんだから、一も二もなく承知を致しました、其處で直ぐ村役に同道をされて荒居村へやつて參へり、村役人一同に會て承知の趣をのべ、同道されて代官陣屋へ出頭に及ぶと、森本甚太夫は大瀧岩五郎に酒などを飲ませ、聽て別間へ呼入まして　甚「扨岩五郎其方此度鎮守祭禮に勝見山と取組むについて折入て頼みがある　岩「エー何事でござゑますか　甚「其方は未だ勝見山と取つた事はなかろうな　岩「ヘイ……話には聞て居りますが未だ取組んだ事はござゑません　甚「勝見山孝太郎は突如に强力な奴だ、年々五十六ヶ村の名主集合の節小村の和泉村が上席を占めると云のは、孝太郎に打勝つ者がないからだ、夫が爲に當今は勝見山が高慢になつて、面が憎いのだ、土俵の上の事は假令怪我させても假投殺しても差支はない逆手でない限りは、就て其方孝太郎を打敗して再び相撲の取れん樣にして呉る譯には行くまいか、其方は豫て聞てへる力量敗けぬ氣遣はない事は信じて居るが　岩「大山私……高言では御座りませんが、素人同志なら甚んな强い奴でも敗る氣は微塵もござゑませんが、勝見山なんぞに敗けちやお此大灘の顔が立ちません、乾度彼奴を總摑りに振つて、土俵の砂に埋めてれ目に掛けませう　甚「ウム夫で悦ばしい……何分頼むぞ、懷中から金子を出して、甚「是ははんの些少だけれ共遣すから十分勝見山を打敗して取挫いてくれるやう、何れ又多分の賞美は遣すから」岩「イヤ是は恐入ます、取らねへ前から斯様な物を頂きましては濟みません乾と野郎を此の目に會して御覽に入れますから、當日の取組を御待ち下さいまし」と飽迄高言を吐いて村役人に伴れられて立歸りました、扨彌々當日八月廿三日となつた、飯綱權現の境内の相撲小屋、早天から入る櫓太鼓、ドンガドンガ〳〵天下泰平五穀成就國家安穩押せ押せばてかしていとついと云太鼓の音と共に集まつて來る、五十六ヶ村の人々は勿論、近郷近在の見物人々〳〵、雜踏してさしも廣い土間、棧敷も一面に人で埋まるかと思ふ計りです、梁川庄八は山城屋伊助の案内で這入て參りまして、程能き棧敷に座を設けて見物をして居る、見物人は銘々他の村の取組は何うでもかまはないが、是非荒居村と和泉村の取組は見なければならん、と云て待構へ



東京電報

▲天津總領事報告

四日在天津小幡總領事より外務省に電報せし所によれば領事團は四日會議に於て左記の條件を以て清兵が天津市二十清里內に入ることを一時限り同意する事を決議せり

一、清兵は外國租界に入ることを得ず

二、砲兵及速射砲を入るゝを得ず

三、已に二個中隊を入れたるを交渉使より首席領事に通知し來るも領事團は之を追認し今後清國官憲に於て入兵の必要を認むる其都度領事團の承認を經て之を決行すべし而して領事團は其正當と認むる限りに於て承認を與ふべし

▲在清留學生安否

文部省在清留學生として清國に滯在するもの〻安否に付て聞く所によれば漢文學並に奈良朝時代の音韻學研究の爲め派遣しある鹽谷文學士一名あるのみにて其滯在地は今回事變の一樞要地たる長沙なるも其安否如何に關しては當局者も多少懸念する所なるも未だ何等の報告に不接多分事變に頓着なく研究に從事し居るならんといふ

▲上海は無政府狀態

在上海有吉總領事の發電によれば上海市場は平穩にして經濟上格別の影響を及ぼさざるが如きも全く無政府の狀態にあるため權利の主張をなす機關を失ひ棉系染料品業者は不安の位置にあり輸入商業者の感ずる苦痛甚大なり

▲芝罘襄陽陷落

芝罘襄陽も亦た革命軍の手に落ちたる旨其筋に公電ありたり

▲廈門包圍さる

公報に依れば廈門は目下革命軍に包圍され混亂せり

▲北京宮廷火災

七日北京宮廷の火災は益々烈しく黑煙天に沖し勢益々猛烈なり發火の場所は禮部衙門にて未だ貴宮には類燒せざるとの事なり

▲宮廷發火原因

北京宮廷今回の火災は革命軍潛かに宮廷に入り込み爲めにて皇帝は遂に蒙塵せられしとの說盛んなり

▲宮殿火災別報

七日午後一時北京宮殿內より火起り忽ち宮殿は熘々たる猛火に包まれ阿鼻慘憺を極め三時頃は最も烈しくさしも宏大の宮殿は一大火宮と變じ黑煙濛々として天を焦し猶何時止む可しとも計られざる有樣なり

▲南京革軍に降伏

陸軍省着電に據れば南京諮政局にては緊急會議を開き遂に革命軍に白旗を揭げたり潮市民も亦白旗を立て南京全部革軍に降伏せり

▲滬寧鐵道中立

六日上海發滬寧鐵道は中立を守り官革兩軍の兵員は勿論其兵器彈藥等も一切輸送せざる事と爲したり

▲各國兵の配置

香港の英兵五百名は上海に露兵二百名は天津に何れも配置されたり

▲松江艦急行

帝國軍艦松江は南清に急行せり

北京特電

▲資政院議員留任

資政院議長は議員の總辭職は國會成立後に於て爲すも遲からずと議員に勸告し一先づ辭職を見合す事となれり

▲革軍軍資金募集

上海を占領せる革命軍は二千萬兩の軍資金を同地方に於て募集せんと計畫しつゝあり湖南湖北二省にて占領せる不動產を以て其抵當に充つる條件なり

▲袁黎會見行惱

袁世凱は黎元洪に書を送りて漢口に會見し協議を爲さんとせしも黎は袁を武昌に迎へて會見せんと欲し之れに應ぜず行惱みの姿なり

▲革軍廢稅布告

革命軍は布告を發して浙江、江蘇、江西、安徽、福建の人民に對し鹽、酒、砂糖以外に課する諸稅及び地方に要せざりし諸種の稅一切を擧げ廢止する事を布告せり

▲革命軍の要求

革命軍の首領黎元洪は休戰媾和條件に付袁世凱及び資政院に送りたる意見書は極めて秘密の裡に調査せられつゝあるが右意見書は二十三條より成りて其內尤も重大なるものは

第一、清朝現皇帝を廢し庶民に降す事

第二、國を漢と改稱し共和立憲政體を爲す事

第三、革命軍より內閣大臣を撰拔登用する事

第四、大統領は國民の公撰たること

等にして皇帝を廢し清廷を顚覆する事は要求の大目的なり而して資政院は之に對し握潰しの態度なるが如し

▲革軍京山鐵道占領

北京山海關間の鐵道は叛軍に占領され白布を纏へる兵士盛んに入京中なり

▲吳祿禎殺さる

山西巡撫となりたる吳祿禎は其部下の爲に殺されたり

▲袁の意見と入京

孝感縣に在る袁世凱は資政院に休戰媾和敢て難きにあらず各省の紛亂に際し區々の媾和反て害あり中央政府の鞏固統一を急とすとの意見を披瀝す袁は六師團長の帥元軍隊より精銳五千を護衛として入京す可し

上海特電

▲雲南の獨立通牒

廣東に於ける清國官憲は外國領事に宛て雲南省は獨立を宣言したる旨通牒を發したり

▲清國艦隊彈藥缺乏

革命黨は江南機器局占領の結果三十七シリポッチキス速射砲三十門小銃一萬挺小銃彈藥二千三百萬發を得艦隊に對する彈藥供給の途を絕つ事を得たり同艦隊は彈藥の缺乏を告げ革命黨は意氣盛んにして市民の同情深し

▲孫逸仙の所在

革命黨首領孫逸仙は依然米國各地に出沒して排滿興漢主義を在米清人に鼓吹し更に清國人の寄付せる軍資金を取纏め革命黨の根據地に送達し同所より上海に向け轉送しつゝありと

▲梧州暴徒猖獗

廣西省梧州府の暴徒蜂起以來益々猖獗を極めつゝありとの電報ありたり

雜報

●南大門停車場改築

南大門停車場は京釜鐵道時代に於ける建物を其儘使用し來りたるものにて狹隘と不體裁は到底今日の時代に適應すべきものにあらざるを以て之れが改築の急務なることは本紙が今春主張せし所なるが其筋にても愈々改築の必要を認め大規模の建築をなす事となり其工事費は別に明年度に計上せずして鐵道建設費中より支辨する事となし明年春より起工の筈なりといふ

清國暴動と朝鮮貿易(三)

……度支部司稅局調査……

△丁、恐慌救濟策(續) 當地の商務總會は曩に金融界の波瀾が如何なる程度迄進むべきか監視す可からざりしを以て現狀維持の方法は只當局者が現銀を貸し下げ紙幣の引換に何時たりとも差支へなからしむるに在りとし張總督に其の承諾を求めたるの外何等の奇策妙案を見出さゞりしに幸ひ兩總督も逐一申請を容れ著々實行に手を下げさしむる筈なり而して總督回電の略を擧ぐれば「新寧の紙幣は既に法を設け應付せしめ各屬の紙幣又た多からざれば此の上省庫に現銀を貯へ置くの要あり造幣廠に銀貨鑄造を命じ此の際新貨の發行に着手すべく各方面の人部局より請求次第何程たりとも現銀を提供すべければ安心ありたし云々」と云ふに在り

地方自治公所總董李平書氏は二十日午後零時三十分取り敢へず北京の郵傳大臣に其の維持を電致せり其意左の如し

滬市鄂の亂より紊動して異常の恐慌を生せり各銀行の鈔票現銀と引換へる者門前山の如し銀價をして八錢に暴騰せしめ取付け者は絡繹絕へず市情阻滯し人心恟々たり上海は商務の樞紐たり全局に關係す今日自治公所會議し開きたる結果過日滬上に到來せる四百萬兩を一時各銀行及び錢莊に借下げ市面に流通せしめられん事を度支部に請ふこと」したれば何卒御盡力を仰ぐ云々

之を要するに戰亂の繼續する間は當低平常に復する事難く輸出入貿易も亦開始する能はざるべし今後革命黨の狀況と共に又た變化を來す可きは勿論なり但し目下の處南京より新貨四百萬兩を輸入し來り外國銀行の寬大の處置によりて行詰ながら停止の狀を保てり(完)

●教育勅語近々發表

朝鮮教育勅語は近々の中官報を以て發表さるべく同時に騰寫の上各道の普通學校高等學校及び各種專門學校に下附さるゝ豫定なりといふ

●總督一行出發

寺內總督は九日午前七時三十分の特別列車にて出發の筈なるが一行中中山大佐藤田副官は演習地迄外波少將は馬關迄隨行するに決定せり因に總督は演習後直ちに東上すべしと

●輸入超過經濟界

……木村鮮銀理事の談……

輸入超過は何處の國に於ても直に之を以て不景氣の前提なりとなすべからず仔細に國際間の貸借や輸入貨物の內容を研究するに非れば其の國財界の前途を論斷するを得ず。我が朝鮮の如きは百事啓發時代に屬し所要の物品材料皆々之を國外に仰がざるを得ざるを以て毎年輸入超過を示すの例なるが今年は稍々其勢を增したるも之とて主として金巾、石油、鐵道材料の類にして必ずしも多く病むを要せず、蓋し目下の朝鮮は播種し施肥するの時代にして之等の投資や勞苦が完全に開花し結實するの迄待たざるべからず。然れども絕わず輸入超過して然かも朝鮮に何等の產業も起らずんば之れこそ永遠に不景氣の打擊を受けんも此點に就ては官民協力種苗の發育に注意して農事の改良や道路の修築、鐵道の敷設の如き肥料を施し以て今日輸入超過の決濟を內地金融に待ちたりしものを他日其等の美果を收めて之を諸方に輸移出して今日の負債を償却せざるべからず是又必ずしも難事ならざるなり、然し目前の金融に至つては一時引締る事あらんも決して恐慌など云ふ大袈裟のものに非ずして年々習々ある緊縮位のものに過ぎざるべし只此開發時代に於て注意せざるべからざるは奢侈や浪費なれば輸入貨物にして此の如き物多き時は深く戒むべきなり云々

●朝鮮鐵道十月中の收入

十月中の鐵道收入は乘車人員二十一萬六千六百四十一人此の運賃二十三萬五千四百十八圓小手荷物斤量八十五萬八千百七十六斤貨物噸數九萬七千七百六十六噸此の收入合計二十二萬一千三百五十三圓總計四十五万七千七百七十一圓なり

●總督の兩宮訪問

寺內總督は九日出發九州大演習地に向ひ更に東上の筈に付き御暇乞のため八日午前昌德德壽兩宮を訪問したり

●總督邸の晩餐會

既記の如く寺內總督には八日午後六時より官邸に各部長官の外上田軍司令官松永師團長明石司令官市原守佐川の兩鮮銀正副總裁を招待し晚餐會を開けり

●直通後の郵便物

國境直通列車開通後朝鮮に於ける郵便物の發受は從來よりも早速となるは言ふ迄もなく從つて時間の連絡等に就ても近々の中關東都督府と朝鮮總督府との間に於て協定を遂ぐることゝなるべきが要するに右直通列車開通後の郵便物は從來京城より奉天迄約四十時間を要せしに反し廿二三時間にて送達するを得べく又從來西比利亞線を通じて內地へ送るべき小包は大連に回送し居りしも今後は直通列車の便に依るにいたるやも測り知れずといふ

寄書

本總督の意義

小松霞南

京城新報記者足下

昨日發行の貴紙鴨綠江鐵橋渡記中、寺內總督が安奉線開通式場に於て讀まれたる祝辭に、本總督とありたれども本總督なる語は朝鮮側に於てのみ用ゆべきものにして、其以外に於て用ゆべきものに非ずとの說あり、驚き入たる迷論と云ふべし、スイロー生とは何人なるかを知らされども其語氣より察するに、廬山の學究に非ずして相隱に東西の世情にも通せる粹郞なるに似たり粹なればこそ迷へるにや。彼の祝辭は朝鮮總督として招待を受けたる席上に於て朝鮮總督として述べたるものなり「本總督」とは本朝鮮總督の略稱たるは勿論にして猶ほ本官、本職、本大臣などの場合と同じ。日本外務大臣が單に本大臣と云ふも其當人自ら云ふときは何人も其の日本外務大臣たるを疑ふべし。凡ゆる一國の官憲は天下到る處自ら其官名を自稱して何の差支もあるなし、何が故に滿州に於て「本總督」と云ふを得ざる乎、滿州とは奉天總督あるが故と爲す乎、假りに朝鮮總督と奉天總督と公式に應對することあらんか、相呼ぶに「貴總督」と「本總督」とを用ひて相別つこと亦貴官本官と云ふと異なる無かるべし。然れども記者足下は滿州に於て漫然「本總督」と云ふときは如何にも滿州總督の如く聞ゆとの老婆心より疑を惹したるものなるべし、果して而らば無理もなき誤なり、記者若し寺內總督が自ら朝鮮總督と署したる祝辭中に「本總督」と云はれたることと、其祝辭が單に日本會社の式場に於て讀まれたるものにして滿州民衆に對する布告に非ざりしことと、安東縣の居留地には帝國官民の關する限り我が管轄權の及ぶ所なる事とを了解せば記者の迷霧は恰かも水標の如く消散し得べきなり。妄言禮に欠くる所なきを保せざれども萬忙中多言を弄するの微衷は記者足下の明能く透察するに難からざるべきを確信して此書を寄す。

●各金融組合貸出期

朝鮮に於ける金融組合は昨今回收時期に迫り居るを以て貸出は可成見合せ居るが農事の收穫時期を經ば更に貸出をなすべく而して次期の貸出口數は一般に於て例年よりも增加すべしといふ

●鮮銀十月中の成績

朝鮮銀行

十月中の金銀出納高は左の如し

入金	二千三百七十五萬七千六十二圓
出金	二千三百八十二萬五千百四十八圓
預金	三百四十二万六千六百六十六圓
貸金	四百二十五萬五千二百圓
爲替	受二百四十四万四千九百廿九圓
	拂二百〇九万一千八百二十圓

●京畿道內會社數

京畿道管內に於ける株式會社合名會社合資會社は總數七十二にして內株式會社三十九合名會社十合資會社二十三なり然して資本金十萬圓以上の會社は株式二十八合名三合資七五十万圓以上は株式十六合名二合資一百萬圓以上は株式十合名一なりと云ふ

●朝鮮石炭採掘事業

朝鮮に於ける石炭の需用は年々增加し同時に內地炭の移入多きを加ふるにいたれるが唯朝鮮に於ては比較的石炭事業の有望なるに拘はらず內地人鮮人の之れに從事するもの尠なく近來稍や內地人の經營者を見るにいたるが要するに將來事業熱の勃興する時期にいたらば斯業に從事するもの追々增加するにいたるべく現に若々之れが傾向を示しつゝありと云ふ而して現在採炭に從事しつゝある個所中(平壤鑛業所は別として)稍や見るべきものは六七個所にして內安州の百萬坪を最とし江原道の通川之れに亞ぎ他は咸北道の鏡城咸南道の咸興慶北道の長鬐等なるが右は何れも有煙炭にて長鬐を除くの外他は內地人の經營に係れりといふ

●總督府文官禮式

八日付總督府訓令を以て總督府及所屬本署の文官禮式を定められしが上官に對する室內室外の敬禮等凡て陸軍禮式と異ならず

●平南成川煙草狀況

平安南道成川郡に於ける煙草の試作其他の狀況に關し過般大藏省專賣局の石井技師と同行出張したる岡田技師の談によれば成川の煙草は內地茨城縣の水府葉產地と酷似し土性も煙草製產地として極めて適當なる如くなるも但し河流多きため水害の恐れなきにしもあらず現に本年の如きも水害を蒙りたり尙其耕作反別は千町步內外にして現に尙朝鮮に於ても有數なりと云ふ

●鮮銀の新築落成期

朝鮮銀行の新築は略竣工したるも內部の裝飾等に尙多少の時日を要するを以て移轉執務をなすべきは明年一月頃なるべしといふ

●鐵道局長官邸竣成

朝鮮鐵道局長官邸は豫て新築中の處今回竣成したるを以て大屋長官は六日夜部下高等官を招き祝宴を催ふせりと

●種鷄の購入配布

京畿道各授產場に配布すべき種鷄白色レグフン、プリマスロック名古屋コーチン等約四十羽東京大島種鷄場へ注文中の處既に發送せるを以て二三日中に到着する筈

●東亞煙草の平壤分工場

東亞煙草會社は平壤に分工場設立中なるが本月中旬竣成し下旬より營業を開始すべしと云ふ

●高等法院長出張用向

既報渡邊高等法院長及び國分檢事總長が臺灣に出張せしは司法事務視察の爲にして約五週間を要すべしと隨行員は坂井野阪兩書記なり

●石田視學官の歸任

東上中なりし學務局石田視學官は八日歸任せり

●原博士の出發

入京中の原法學博士は九日午前九時當地出發途中長崎に立寄り歸東すべしと

●佐藤辯護士の歸東

入京中なりし辯護士佐藤博愛氏は九日午前九時南大門驛發歸東す

▲京釜兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客(七日分)	
乘車客 七一五	降車客 八三六
乘車賃金 一二九八、八三〇	
▲南大門驛貨物發送高(七日分)	
發送貨物 一〇九噸	到着 三五八
貨物賃金 一二八四、八三〇	
▲龍山驛乘降客(七日分)	
乘車客 二三九	降車客 二四三
乘車賃金 四九六、六二〇	
▲龍山驛貨物發送高(七日分)	
發送貨物 三一噸	到着 一〇二
貨物賃金 一二四、二二〇	

▲京城手形交換高▼

十一月八日	金高 二一一、五二〇、三三〇	枚數 六四六

▲治外法權▼

ツイ此間歸つて來た許りの寺內總督は、亦々本日出發九州大演習の陪觀に赴き、ソレカラ萬足で例の某亦々東京へ赴かれるソウだ▲總督の東京行ソレは惡い事ではないシカシ專任となつた今日に於ても、コウ尻が落附かないとはハテサテ困まつたもの、コイツアどうでも伯爵夫人の智慧を借りざあなるまい▲或人曰く總督今次の歸任は餘りに日數が短かつた爲に何事も成し得ざりしと思ふと、餘り歸任日數の短かき事は或人の言の如し、併し總督は其短かりし日數中に於て世人の感謝に値ひする一大事業をして居る、サレば總督の事業を見得るものには彼れの歸任日數の短かきとなどは問題にはならぬ▲問者云はん一大事業とは何ぞと、記者は答へん利息制限法、一名高利貸取締法の發布と、高利貸取締法の發布は實に總督仁政の發現であるのだ▲只だ是からの問題は此仁政の發現を如何にして實行するかである、ソレに付き或人の曰く、總督の仁政も之れを實行せざれば乃ち畫餅、ソコで思付いたのは今後金錢の貸借をする場合は其取引は必ず警察官を立合せることだと、之れは成程良い思付きだ▲總督府外事局長兼總務部長官小松綠氏が別項掲載の「本總督の意義」なる寄書を送つて來た、小松は筆マメな人、每時ながら其能文は感心▲併し小松の辯は云への▲元來安奉線開通式場總督が寺內總督の用ゐた「本總督」なる詞を耳障りに感じたのはアンナ場合常識からであつて理屈からではない、ソレを小松が外交官風に理屈的辯明をしてもアカリの立ち樣はない▲數ヶ月以前寺內總督は當地の赤十字社大會に臨み、其演說中に日韓兩國の婦人云々と言つたことがあつた、コレを聞咎めて總督に注意を與たのが本紙、ソレから後ち彼れは仁川築港式を始めとし何れの會に於ても書いた物を讀む樣になつた▲理屈は理屈、耳障りは耳障り、兎角第二のソウハラ問題を起さぬ樣注意せねばならぬ。



チャンピオン傳(七)

北部警察署長 **鈴木重民君**

鈴木重民君は朝鮮總督府警視で北部警察署長だ、と何も重ね〱斷るには當らぬが念には念を入れと云ふ事もあり間違ひの無い樣にと念を入れる譯なり何うも老人は諄う御座りますて、扨現は北部署長の鈴木重民君、西部署長に新任された當時一巡査が惡い量見から……ではなく……云はゞ無意識に御挨拶の爲め署長の官舍に罷り出でた、其頃の君の官舍は今の京城日報監督德富猪一郎君がモグり込んで居た所であつたのだ……而して恭しく菓子一折を呈して「何分ども〳〵」と申し置いて歸つた跡へ歸つた重民君右の趣を聞いて首肯て居たが翌朝其菓子折を抱ねて出勤して扨其巡査を事務室に呼び寄せて衆人環視の内に於て『私は君に貰はなくても菓子を食う位の金は政府から頂いて居る以來斯う云ふ心配は仕ない樣に』と申し渡した、奴さん一言も無く縮み上つて終つた、君の無骨さは何時も此調子で實に**無愛想の見本**に擬へられたかと思はるゝ程遺憾なく無愛想だが親しく交際するには却つて飾り氣が無くて好いと云ふが記者に言はせるとモ少し愛想があつてもと思はれる程だ、然れば其チャンピオンとして紹介しようと思つたが夫れよりも未だ振つてるのがあるから見合はしたが君の碁は既に一家を成してる相だ記者は親しく其遣り振を見ないから何流を使はれるのかは知らぬが兎に角**劍道**に於ては**一級**だと云ふから大したものだ、既に有級者と云ふこと既に大なる誇であるのに君は二級と云ふのだから其使ひ手たることは云ふ迄もない、道場に立つて巡査連を敵手に立合つてる時に於て無愛想者の本色は遺憾なく發揮されて「れ面だ、れ小手だ、ソラ胴だ、れ面だ、れ小手だ「コキン、ポト、ハハ、ツシン、ドヤス、バタ」〱と敵手を入れ換へ入れ換へ熱心な事驚く斗り巡査連曰く「大抵の風邪は署長に稽古をつけられるとぬけて終う」と云つて居る然れば此チャンピオンとして紹介しても好いのだが夫れより未だ振つてるのがある、夫れは何かと云へば即ち圍碁である、君の**圍碁**たる實に**珍中の珍、奇中の奇**だ誰れと對局しても一番終には必ず勝つ然れば強いのかと云ふと拙手も拙手も拙手なのだから不思議だ、然らば甚んな**巧手**にでも**名人**にでも**一番終局**には**必ず勝つ**と云ふのだから摩訶不思議の次第であらう、其秘法をソット話しすると斯うである、君は碁となると飯も何も忘れて終う而して何十番でも圍む敗けても敗けても日が暮れようが夜が明けようが一切萬事を放擲する此所に於てか敵手たるもの閉口せざるを得ない、其所で即ち一番終局に敗ける次第であるが其敗けるのが大仕事である、「鈴木さんと碁を圍むと勝つのはゾウサないが一番終局に敗けるのが骨だからなア」とは一般の評である、以て其拙さ加減を知るべし、取つて以て**ヘボ碁のチャンピオン**とす(終)

●新町の稲荷堂

白面子

(二)七日午後四時

司法部職員課長山邊勇輔氏の長女とし子さん神經衰弱症に罹られ高等女學校を中途退學され當地に於て療養中なりしも捗々しからんので目下内地へ轉地療養をして居られるが之れは未だ當地に在つて療養中の事醫師に藥に手を盡したるも其効なきに疑つては思案に能はずの格で夫人は他の勸めに從ひとし子さんの**病氣平癒**を新町の稲荷さんに**立願**され少なからず金品の寄附をされた相だ、此の話を耳にしたのでフイツと行つて見る氣に成つた七日午後三時半、新町に差し蒐ると各樓とも掃除其最中大樹屋ヶ横門は開放され「菊花縦覧随意」と大書された札が貼られてある、れ職部屋の窓口に首を凭たせた**銀鳥の物思ふ姿**が**優しくも又もの淋しい**、此を繪にして御覧下さい、行く秋の夕暮近い赤松山の中の小やかな稲荷の祠に通ふ小徑の所々に立てる小さき丹塗の鳥居の下を潜る若き男の後姿を見るともなしに見送りて幸薄き人の子の艶に嬌ける欄に倚り物思はしげに佇む樓下には幾十鉢となき菊花の樣々の色に飾れるのを、繪だ、詩だ、極めて悲しい歌だ、と思ひつゝ赤松林を縫ふて室前に出る、小さな茶見世ヶ横に見て段々に昇る路傍けてフト見ると寄附人瓢籠縣人永望町豐代ゆ館本清太郎とある、御堂の障子はピッタリ閉てある「御免下さい」と聲を掛ける「何か用かな」と小さな干乾びた如な聲で呟きながら戸を開けて**顔**を**出**したのは**八十餘**の**老婆**さんである「參詣です」と云ふ「れ參りならとんなさい」と云ひながら障子をピシャリと閉めた妙な婆樣だ哩と思ひ乍ら折角婆樣が閉めた障子を又開けて中へ入つて見ると婆樣熱心に南無妙法蓮華經〱とお題目を唱ねて居る、信神即異心であるから何でも宜い如な者の稲荷大明神に南無妙法蓮華經は面白い、先づ神前に叩頭て扨錢首を捲げ眼を光らして堂内を見廻はすと赤白の旗が澤山にあつて夫れに一々奉納者の名がある井門支店の演枝、幸子、富士枝などの名もあつた皆春樓の花子京城樓の千代子、花子、月子なんぞの名もあつた、神前に捧げられた樣々の供物の中で目に止つたのは「池田長兵衞」の名札と「**皆春樓内牡丹**」と**銘を打つた油揚げ五枚**とである、神前左側には寄附人名簿が下つて居る、右側には**日々祈願人名**とあつて十數名の氏名が列ねられて居る中に**終**から**三番目**に**山邊とし子**さんの名がある、成程嘘では無かつたと獨り心に點頭いた(つゞく)

●水兵外洋に飛込

▽意氣や可、行や不可

原籍兵庫縣神戸市長田町九番地の一當時仁川花房町瀬戸旅館滞在海軍一等水兵竹内惣一(二七)は七日午後三時仁川出港の大有丸に友人岡本惣一の歸國を見送らんが爲め艀にて本船まで行きたるも懐中一文もなかりしより艀賃錢の支拂出來ざるを艀人船夫に強て請求されたるを大有丸は煙を吐て出發せんとするにぞ水上係の石川巡査出張し惣一に本船より艀に乘移らしめ歸仁をすゝめたるに惣一は更に聞入れず其の中流船は錨を抜きて月尾島二海里の沖合に進行せし時惣一は異裸体に成て甲板上より海中に飛込みたるより船員一同大に驚き直ちに非常汽笛を鳴らし尚救助機を投じなどして救助に努め居たる折柄港外碇泊中の辰丸の通船通りかゝり乘組員韓人金晋龍等共力し漸く救ひ上げ辛くも一命を止めたるより大有丸のボーイ佐々木梅三が艀に乘せて上陸せしめたる由本署に報告ありたれば係官取調べたる處惣一の曰く十錢の艀錢なき爲め恥辱受けしを殘念に思ひたるより目下港外碇泊中の辰丸には知人乘込み居るより該船まで泳ぎつき知人より借金して艀賃を支拂ふべき覺悟なりしと述立てたるより説諭の上該艀支拂はしめて放還したりと

●塚原判事の喚問

▽區裁判所の宮脇判事に

京城地方裁判所刑事部裁判長が同區裁判所に民事證人として訊問せらる可く證據決定ありたる事件あり原告は本町五丁目梶原末太郎氏にして特許辯護士小川勝平氏を訴訟代理人とし竹園町一丁目高柳茂一を相手取り家賃金百三十五圓の請求訴訟を京城區裁判所に提起し訴の原因は原告は被告高柳より明治四十一年十二月大和町二丁目所在被告が居住せし家屋を代金一千二百圓にて買受け一ヶ月金二十圓の家賃にて被告に貸與し四十三年七月迄被告が居住せしを以て所有權移轉當日より七月迄の家賃金百三十五圓を請求せし次第なりと云ふにあり被告の主張は家屋を千二百圓にて賣却したるは事實なるも代金千二百圓は安賣りなりし爲め賣買成立當時六ヶ月間は無家賃にて居住す可き特約にて殊に七月上旬に竹園町に轉住せしかば原告の請求に應ずる能はずと云ふにあり岡來宮脇判事田村書記の係りにて審理數回に渉り公判開廷せられ中なるが第二の爭點たる四十二年七月上旬被告は該家屋より退去せしと申し立つるも當時原告が該家屋の賃貸契約を京城地方裁判所刑事部長塚原友太郎氏と取結びたる爲め七月中旬塚原氏は該家屋を見に行きたる際現に被告は居住し居り塚原氏が八月一日該家屋に引越しと同時に被告は退去せしものなれば其の事實を證する爲め塚原氏を證人として喚問あらん事を原告より申請せしにぞ宮脇判事は必要と認め證據申請を許可し來る十一月十四日午前十時刑事部長たる塚原氏を正式に證人として訊問す可き筈なるが如何に裁判とは云へ區裁判所民事部小法廷の下に立ち宮脇判事の面前に訴訟法に基く宣誓の上訊問されるとは珍らしき事件なり

●船中に賭博開張

近來龍山元町一丁目漢江江岸なる多數の船舶内にて賭博を開張するものある由に付龍山署にては之れが偵察に怠らざりしが果せる哉七日午後八時四十分徳島縣名東郡入田村字入田當時仁川松阪町二丁目十一番戸ノ二船業松本助太郎(二二)外四名は岡田増蔵所有の船内に於て賭博中會根崎山本兩巡査に踏み込まれ直ちに逮捕せられ又同時に慶尚道知郡令張村當時仁川松阪町二丁目本村清太郎所有小都島丸船頭長野友一(三七)外八名も宮地豊吉所有の船底に於て開張中村上巡査及関巡査補に難なく逮捕せられ何れも龍山署へ引致せられたり

●炊事夫の窃盗

群山鐵道 官舍合宿所炊事人五十嵐鶴治方居住熊本縣天草郡島子村生れ宮崎萬太郎(一八)は窃盗前科二犯の曲物にて其筋の注意人物なりしが近頃身分不相應に桃山遊廓日進樓の娼妓を敵娼に遊興するより龍山憲兵分隊の憲兵取調しに二十四日午後三時頃鐵道官舍内に於て永田明雄外數人の金品十數圓を窃取したる事判明し檢事局に送られ京城區裁判所に於て懲役一年に處せらる

●敷島新地遊廓の開業

仁川新地遊廓は愈々新築落成を告げたるより從來市中各所に散在せし所謂本部料理店組合は十一月は全部移轉をなし純然たる遊廓となりたるより十日午前十時より花々敷開業式を行ふ由なれば嘸かし遊冶郎の出動を見るならん

●演藝だより

▲壽座 既記の千里眼破天荒自覺術の本家本元と稱する三田光一の自覺術及び大奇術を以て明十日初日の蓋を開ける筈にて初日に限り三十錢均一 ▲歌舞伎座 片岡鶴之助一座の浪花節芝居にて大道具大仕掛に演ず

近々歌舞伎座に出演の吉田奈良男



▲御成座 今晩より川合勝一座 ▲浪花館 女義太夫竹本小浪一座今九日夜の語り物は御祝儀寶入船(入登)苅萱道心山の段(光昇)四谷怪談伊右衛門内(照路)朝顔日記宿屋(小町)播州皿屋敷鐵山館(数栄)戀女房染分手綱沓掛村(九重)御所櫻堀河夜討辨慶上使(小浪三四)忠臣藏一力(掛合)



▲淸水席の政奴と申すは夫れは〱大變に可愛妓なるが此頃花家の一九と義姉妹の縁を結び一九の一を貰つて一奴と改名したり、なんて知つた振りを仕つるも一奴可愛からだと申して居る人がソレ眼の前に居るちやあないか▲同席の笑太郎は韓銀のチイさんに別れてから以來モツト若い所は無いかと盛んに探し回つて居る▲翡翠の伊達子「姿や舞振りに翡翠掛けの腕袖姿が好きよ」と贔屓連を喜ばして居るが豈圖らんやのやだから迂濶其口に乘つて袖でも引張らうものなら「云ひつけますよ」と來る、其所で默つて引き下れば無難だが歸め惡く「誰に」とでも聞いて御ろんぢやい「宿のれ爺さんにですよウ」▲同樓の仲居れふく曰く「れ柴姐さんより私が若く見ゑますつて……マア嬉しい」と云ひながられ柴の顔を見て「併しれ柴姐さんにはれ氣の毒ですがナ」とニコリとして「何をへいへいズミまショう」▲清華亭の鶴羽は岩本君の楽隱に引張り住替を餘儀なくしてからと云ふもの痩せ衰へ京城券當時の小鈴とは思へぬ程なり、思へば〱岩本さんは罪な方なり▲同亭の鈴奴は足抜を企てし以來何うも人氣が思はしからぬに名でも變へたらぞて奉吉と改名し異面目に稼いで居ります、よ▲同政菊は本町のキドーサンの引合にて新聞に書かれしよりサタケハンの御機嫌斜となりしぞ一頃三面記者の似顔に釘を打ち込んで居たが此頃元へ返つたので打ち込んだ釘を一本〱叮嚀に引き抜いて居るとの事▲同若龍は丸ポチャの愛嬌が呼び物となり大に賣れてるのは芽出度し▲松葉の照羽は永らく病氣休業中の處二三日前より「相變りませず」▲同茶羅丸は義太夫上出來とありて貰つた五十八圓モウ二圓あると六十圓になつたのだがと其上慾ばつた事を申して居る▲同時松は今月も又一番になるのだと云つて大力味▲京城券萬家の吉彌は或る事情ありて「孝ならんと欲せば德ならず德取らんと欲せば孝ならずオヤ〱チヤヨイと塵らしましよう」と大眞面目で柄にないハンハンハンモンチウ(郎雀)